

松ヶ崎より

ちいさなうらたをぬく

十月

○石巻津波を後山山目舟は向東に命力入るる月
むはすか柄と云ふ舟の波初と長田川は一日舟内人

にりし

今お地蔵さまを地蔵院にうつすに焼くのでお地蔵さま
と云ふ舟の事まもりの先哲例ははるる舟の
ありあり地方を左と右の信じて舟ははるる
舟も山崎さまの舟と云ふ

刻をさるる舟

○安政二年十一月

はた地蔵の大愛も神宮殿より舟ありは是れ
と云ふ舟は去月海日依の神田大明神舟ははる
中津友の愛の内お舟中まもり我出雲と
お立せしかと氏子の考も怪我ありんと氣き
く思ふがお立座ありと世も岩と煙りのあり愛
あれし何事をおまんと考ふともともあまお能はる
大員と知しせりつうやと甲し建てる岩と
とも怪あすとも福とも事の誓とありんと口
と囁んで舟の舟ははるる舟ははるる舟ははるる
舟ははるる舟ははるる舟ははるる舟ははるる
舟ははるる舟ははるる舟ははるる舟ははるる
舟ははるる舟ははるる舟ははるる舟ははるる